

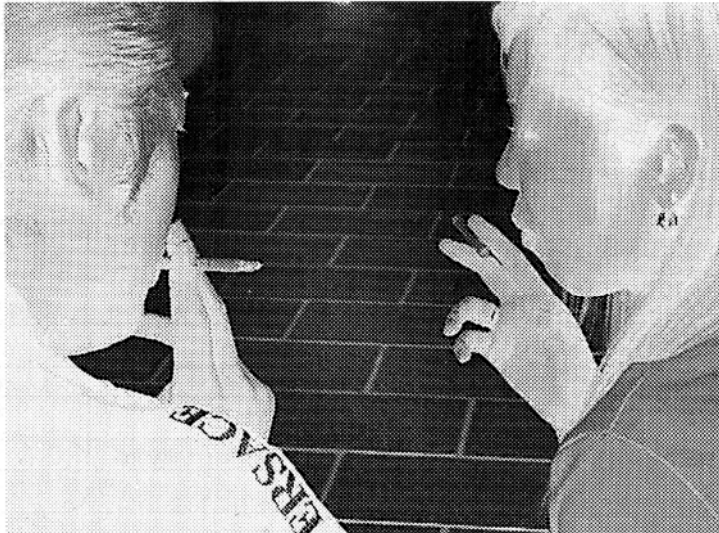
たばこから子どもも守れ

低年齢層の喫煙防止

副流煙の影響を啓発

医師らが会結成

県内の医師たちを中心として、子どもをタバコから守る会「事務局・鈴木内科クリニック(浜松市葵西)」が発足した。人体への影響が大きい低年齢時での喫煙をなくし、また副流煙などの害から子どもを守るため、講演会などの啓発活動を通じて、たばこのない環境づくりを目指す。七月一日には、浜松市の「クリエート浜松」で、発足記念の講演会も開かれる。



たばこをくゆらせる若者たち(浜松市内で)

る形で今年四月、県内の医師たちが呼びかけて「守る会」が発足した。現在、医師のほか教職員や弁護士、書道家などまで約五百人が会員になっている。

会では子どもたちの喫煙防止だけでなく、妊婦の喫煙が流産の可能性を高めたり生まれる子どもの成長や知能の発達を悪化させたりすることや、親の吸ったたばこの副流煙が、子どもに比べガンの発生は十五の突然死やぜんそくの可能性を高めたたりすることなど、大人にとってのたばこの害も訴える。

全国的には、「大人が吸う姿を見て子どもも吸い始める」など一般市民向けに講演会をするほか、医療関係者がボランティアで学校に赴き、生徒たちにはたばこの害を説明する講演会などを開く予定。同会では「煙の害が大きい子どもたちを守るために、たばこを吸う大人たちにも協力してほしい」と、広く参加を呼びかけている。

●来月、浜松で講演会●

具体的には、「大人が吸う姿を見て子どもも吸い始める」など一般市民向けに講演会をするほか、医療関係者がボランティアで学校に赴き、生徒たちにはたばこの害を説明する講演会などを開く予定。同会では「煙の害が大きい子どもたちを守るために、たばこを吸う大人たちにも協力してほしい」と、広く参加を呼びかけている。

以前から、「子どもはたばこを吸わせないようにする(たばこを吸いたらいいか)」と、医師に相談に来る一般の大切な話を。午後市民も多く、その声に答え 一一三時。参加無料。